



高橋怜子 撮影

高橋怜子さんが撮影したフィリピン・ブスアンガの海。右上にジュゴンが見える。



プラスチックごみが海へ及ぼしている影響

年間800万トンのプラスチックごみが海へ流出しています。



2050年には、プラスチックごみの重量が魚の重量を超えると試算されています。



魚がプラスチックの破片を誤って食べると、その魚を食べる私たちの健康にも被害が及びます。



## 特集

# プラスチックごみを

# 減らす

— Save the Sea —

近年、世界的な課題となっているプラスチックごみの増加。排出削減のために、私たちができることとは——。

問い合わせ 環境政策課 ☎72-8284

# 年

間800万トン——。これほどの量のプラスチックごみが海へ流出し、さまざま

な問題を引き起こしています。この状態が続くと、2050年には、海洋中のプラスチックごみの重量が魚の重量を超えると試算されています。

海洋プラスチックごみ問題によって影響を受けるのは、海洋生物に限ったことではありません。漁獲量の減少によって魚の価格が高騰したり、汚染によって海水浴やダイビングを楽しめなくなるなど、私たちの生活にも大きく影響します。また、マイクロプラスチック（5mm以下の微細なプラスチック類）を飲み込んだ海洋生物が市場に出回れば、それらを口にする私たちの健康にも被害が及び可能性があります。今号を通じて、プラスチックごみが環境に与えている影響を見つめ直し、排出削減のために私たちができることについて考えましょう。



Profile

大船渡市出身、北上市在住の水中写真家。National Geographic社主催の写真コンテストにて、約1万3千点の応募作品の中から、2018年、日本人初の年間グランプリに選ばれる。平成30年度北上市芸術文化奨励賞受賞。

スペシャルインタビュー

—水中写真家が見た海洋の現状—

—年間の半分以上は国内外の海で撮影を行う高橋さん。海洋プラスチック問題の現状について教えてください。

私は、整備された都会の海から途上国の海まで、たくさん場所を泳ぎまわりましたが、プラスチックごみによる汚染は世界の津々浦々で見られます。

アジアの屋台などでよく見かけるのは、ケータリングの際に飲み物からチャージャーまで食器の代わりにプラスチック袋に入れて販売している光景です。それほどプラスチックは軽量で便利で、長く私たちの生活に浸透してきた物質です。

ただ時々、潮溜りの海に色とりどりのプラスチックが、そこに住む魚の数と同じくらいかそれ以上に漂っている様子を見ると、その汚染の深刻さを痛感します。



海藻を食べるジュゴン

訪れた撮影場所の中で、心に残っている光景を教えてください。

今年2月、ジュゴンの撮影で訪れたフィリピン・ブスアングの海の様子です(2ページの写真)。

その海域には、絶滅危惧種に指定されているジュゴンが40頭ほど生息しています。ジュゴンは成体で約450kgと、とても大きな体なのですが、食事は主に海藻です。1日に自分の体の10〜15%の重量の海藻を食べて生きているので、彼らと泳ぐときは食事中が多いのです。

約1週間撮影を続けて気付いたので

すが、ジュゴンは海藻がたくさん生い茂っている所では食事をしないのです。そこに行ってみると、海藻にたくさんプラスチックごみが溜まっています。彼らの食事の様子は、バキュームカーのように砂と海藻を一気に口に吸い上げて、砂は糞として排出します。

海藻にプラスチックが混ざっていると選別が不可能で、海藻や砂と一緒に口に入ってしまう。そんな食事を長く続けたら腸が詰まったり、化学物質が彼らに深刻なダメージを与えます。ジュゴンはその危険を察知し、その海域では食事をしなかつたのでしよう。その姿を見ながら、悲しい思いでいっぱいになりました。

—グランプリに輝いた「MERRMAY ID」はザトウクジラを撮影した作品でした。

私は特に大型の海洋哺乳類が大好きで、クジラやイルカを主に撮影しています。

直接見てはいないのですが、座礁したクジラのお腹からプラスチックごみが出てきたという記事を見たことがあります。無限のように思える大海原を回遊するクジラのお腹に、何百kgものプラスチックごみが詰まっていると考えると、深刻な事態に直面しているのだと感じます。

—内陸に住む私たちができることは何でしょうか。

私が最近感じているのは、ごみを出す際は分別をしっかりとすること。これは再利用につながります。プラスチックを使用する際は、代替の素材を考えます。紙はどうか？包装を簡素化できないか？などです。

また、自然に戻るプラスチックの開発・普及が進むことを望みます。プラスチックはあまりに私たちの生活に浸透しすぎており、すぐに使用ゼロにはできないでしょう。自然に戻る素材に変えていくことも使用量削減と同じくらい重要だと考えています。

先にクジラのお話をしてしまいましたが、私たちの食する魚のお腹にもマイクロプラスチックなどの影響は少なからず出てくるはず。

陸と海はつながっています。海が健康ならば私たちも健康やかに過ごせるはず。



プラスチックごみが溜まる海域を見つめるジュゴンの背中

## 海を守るために 私たちができること

# イ

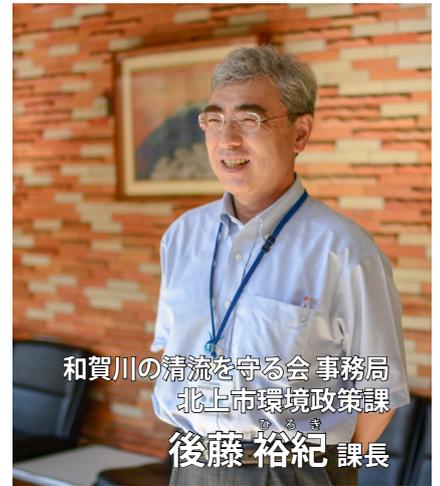
インターネット通販やテイクアウト商品の普及によって、包装や容器などあらゆる用途で利用されているプラスチック。使用量の増加に伴い、路上や河川へのポイ捨ても増えているといえます。それらが海へ流出し、海洋環境の汚染を引き起こしています。

誰もが利用するものだからこそ、使用量削減や適切な排出に向けて、一人一人の意識と行動を変えることが大切です。ポイ捨てをしないことはもちろん、エコバッグや詰替製品の利用、ルールに従った正しい分別など、日々の生活の中でできることは多くあります。内陸に住む私たちの心掛けが、未来の海を守ることにつながります。まずは身の回りのことから始めてみましょう。

当会は昭和47年に、河川的环境保全を目的として、和賀川流域の事業者が集まって設立されました。

主な活動は、年に2回実施している河川パトロールと清掃活動です。和賀川流域を活動拠点とする各種企業や団体などの職員200人以上が活動に参加しています。設立当初は、河川敷がごみの山になるほど膨大な量の不法投棄があったといえます。現在は、以前と比べて不法投棄は減りましたが、コンビニ弁当の殻やペットボトルのポイ捨てが散見されます。

海洋プラスチック問題について、内陸に住む私たちはピンとこないかもしれません。しかし、陸に捨てられたプラスチックごみが風に飛ばされ、川から海へと流れていき、その破片を魚が食べると悪影響は人間にも及びます。最悪のシナリオを回避するために、私たち一人一人が必要なことに取り組むべきだと感じています。



和賀川の清流を守る会事務局  
北上市環境政策課  
後藤 裕紀 課長



和賀川河川敷の清掃活動で回収されたごみ

### 私たちができる 3R

#### リデュース Reduce

ごみを減らす

エコバッグを利用し、  
レジ袋を削減



#### リユース Reuse

繰り返し使う

詰替製品を利用し、  
ボトルを再使用



#### リサイクル Recycle

再生利用する

資源物収集の  
ルールに従って  
正しく分別



### プラスチックごみ削減 7.1行動

7月1日から全国一斉に始まったレジ袋の有料化を受けて、市と北上市公衆衛生組合は、市内コンビニエンスストア51店舗でエコバッグ使用の呼び掛けや啓発ポスターを掲示しました。



セブン-イレブン北上大通り4丁目店で  
行われた開始セレモニー

### ポイ捨ては法律違反!

道端などへのポイ捨ては、法律で罰則のあるれっきとした犯罪です。

(廃棄物処理法 16条)

何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない。

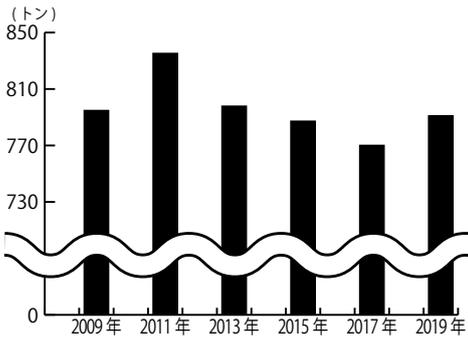
(廃棄物処理法・罰則規定)

5年以下の懲役若しくは1,000万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

景観の悪化や海洋汚染の原因にもなるポイ捨ては、絶対にやめましょう!

## ■北上市のプラスチックごみ排出量

(資源ごみとして出されたプラスチック製容器包装類、ペットボトル、発泡スチロール)



直近10年間は800トンほどで推移しています。

どの製品に生まれ変わります。再資源化のためには、正しい分別を行うことが必要です。いま一度、プラスチックごみの出し方をおさらいしましょう。

# 適

切に分別され、資源ごみとして出されたプラスチックごみは、工場で処理された後に、繊維や食品トレイ、建築資材などの製品に生まれ変わります。

再資源化のために  
分別方法のおさらい



北上市公衆衛生組合連合会  
小原 金二 会長

当連合会では、市内125行政区に公衆衛生組合長を配置して、ごみ集積所の管理のほか、ごみの分け方や出し方の見回り・指導を行っています。

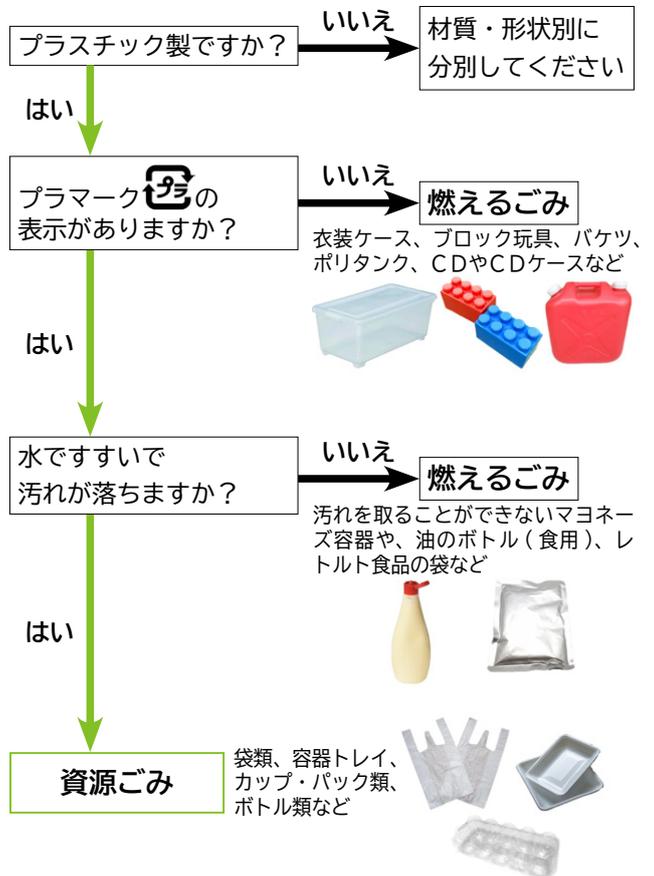
資源ごみステーションでのプラスチックごみの出し方を見ていると、他のごみが混ざっているなど捨て方を知らない人が多いのかなと感じ、その際には声掛け

をしています。また、最近増加しているアパート専用集積所では、不分別なごみが回収されずに周辺に散乱し、地域によっては対応が追い付かない状況となっています。アパートの管理者を通じて指導してもらうなどの方法が必要だと感じています。

環境を守るために私たちができることとして、プラスチックごみをできるだけ資源ごみとして出すようお願いいたします。少し汚れが付いたものでも、きれいに洗えば資源ごみとして出せます。少しの手間を掛けることでプラスチックごみは再資源化できるのです。



## プラスチックごみ分別 フローチャート



## ごみ分別アプリ 「モバ支所」を配信中

モバ支所は、スマートフォンなどから、ごみの日や分別方法などの情報を簡単な操作で確認することができるアプリです。

- ◇ごみ出しの日を分かりやすく表示  
お住まいの行政区を設定すると、カレンダーと一覧で収集日を確認できるので、ごみ出しの日が一目瞭然。ごみ出しの前日と当日に通知を受け取ることもできます。

- ◇ごみ分別方法の検索  
一覧選択やフリーワード検索で、ごみの分別方法をすぐに調べることができます。

- ◇市からのお知らせを通知  
ごみの出し方について、市から臨時のお知らせがあるときは、即座に通知されます。



ダウンロードは  
こちらから

